

ダム工事で再発見！～地元旅行会社とダム工事見学者ニーズについて～

中部地方整備局 設楽ダム工事事務所 久野・伊藤

設楽ダムとは

DAM-DATA

所在地 : 愛知県北設楽郡設楽町
河川名 : 豊川水系豊川
形式 : 重力式コンクリートダム
ゲート : 自然調整方式
堤高・堤頂長 : 129m・380m
総貯水容量 : 9,800万 m^3
完成予定 : 令和8年度(2026)

今までの経過

- ・昭和53年(1978)
実施計画調査着手
- ・平成21年(2009)
国・県・町がダム建設同意

現在施工中

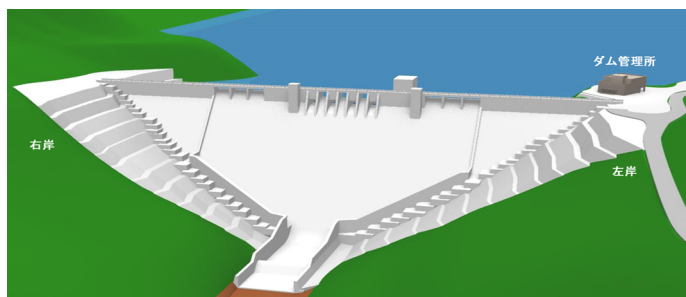
- ・付替道路工事
- ・ダム本体工事着手前の「転流工」



配布中のダムカード



ダム上流側からの完成イメージ



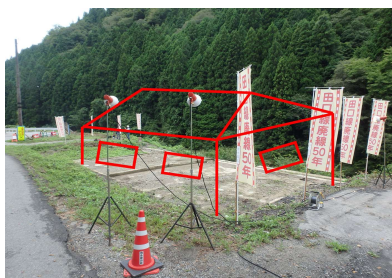
ダム下流側からの完成イメージ

旧田口鉄道廃線跡探訪を目的としたツアー開催

- ・ダムが建設される地点は、かつて旧田口鉄道が運行しており、ダム完成後は、旧三河田口駅はダム湖に水没し「もう見られなくなる」ことから、地元よりホームを再現できないかとの相談があり、設楽町の歴史文化を記憶に残してもらうためホームの一部の発掘作業を実施
- ・近年全国的な廃線ブームであり、旧田口鉄道廃止50年特別企画「奥三河再発見」として、豊橋鉄道(株)より国へ旧三河田口駅の見学とバス駐車場について相談をいただき、観光資源促進の一環として協力



- ・旧三河田口駅は、ダム工事で使用する廃棄岩骨材運搬路の工事現場内に位置し、工事車両が近くを通行し、許可なしでは立入りができない状況となっていたため、ツアー当日は職員同行の上、立ち入りを許可
- ・旧三河田口駅で、ツアー参加者より、廃棄岩骨材運搬路の質問が相次ぎ、図面で説明
- ・そのため、本来ツアーの予定にないダム軸付近の説明や**転流工呑口部の説明を即席で実施**



旧三河田口駅ホーム発掘



旧三河田口駅見学の参加者



- ・豊橋鉄道担当者よりダムの説明について好評をいただく
- ・ツアー参加者の反応も上々



廃棄岩骨材運搬路見学者



転流工呑口部の説明



国から豊橋鉄道(株)へ「転流工」工事見学を目的とした新たな企画を打診

転流工・・・ダム本体の施工が乾いた状態で行えるよう、河川の流れを変えること

大盛況の「転流工」工事見学

奥三河再発見ツアーの実施コースと参加人数

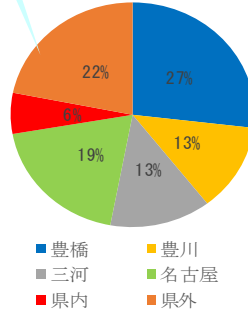
回	出発日	コース名	参加人数
1	2018年7月22日(日)	田口線廃駅巡りと第100回軽トラ市へ	25
2	9月2日(日)	三河田口駅イベント参加ツアー	24
3	9月20日(木)	長篠から鳳来へ廃線跡ガイドウォーク	34
4	10月23日(火)	田口線廃駅跡めぐり	38
5	10月31日(水)	田口線と設楽ダム見学①	40
6	11月6日(火)	田口線廃線跡ガイドウォーク	22
7	11月17日(土)	田口線と設楽ダム見学②	41
8	11月27日(火)	田口線写真展ともみじまつり①	10
9	11月30日(金)	田口線写真展ともみじまつり②(中止)	0
10	12月15日(土)	三河田口駅跡と天浜線転車台見学	39
11	2019年2月3日(日)	奥三河に残された田口線廃線跡めぐり	17
12	2月24日(日)	設楽ダム工事現場と廃線跡ガイドウォーク	39
13	3月5日(火)	森林鉄道軌道敷跡ガイドウォーク①	36
14	3月13日(水)	田口線廃線跡・双瀬トンネルへ	22
15	3月30日(土)	森林鉄道軌道敷跡ガイドウォーク②	38
計			425

設楽ダム工事現場見学を開催

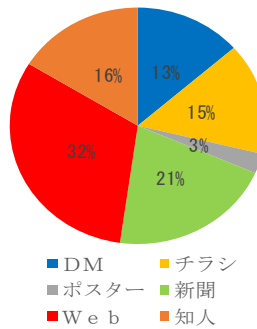
資料提供：豊橋鉄道(株)

遠方在住のダム愛好家の
方などが参加

ツアー参加者の住所



ツアーを知ったきっかけ



水が流れていない転流工内を
歩けるため、見学者に好評



工事概要説明



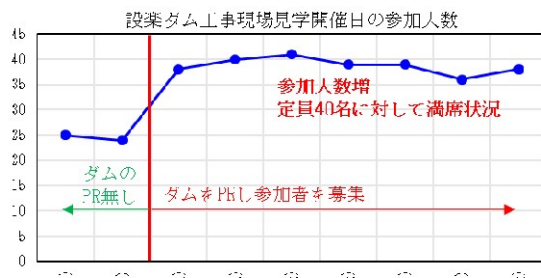
転流工内



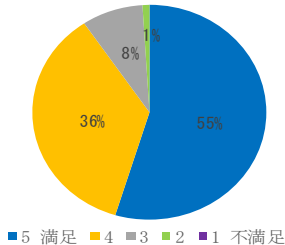
転流工内を探検



トンネル終点



ツアー満足度 (5段階評価)



参加者の感想

- ・工事進捗が良く分かった
- ・もうすぐ本体着工することが分かった
- ・以前から転流工に興味があったので、見学できる機会があって良かった
- ・転流工の石で地域活性化できないか？検討してくれないか？
- ・今後もこのような見学会を行って欲しい

今後の課題

課題① 大型バスの進入について

工事用道路が整備され大型バスでの進入が可能となっているが、ダム河床部は大型バスの転回場所が1カ所しかなく、また停車できる台数も1~2台までが限界である。

対応案

ダム左岸側に現在整備を進めている付替県道瀬戸設楽線の整備完了後には、この道路を使って大型バスが進入可能となる。またダムの工事状況が一望できる**見晴らし台**が将来整備されることで、更なる観光客の誘致が期待される。

課題② 観光客の設楽町内での消費促進について

現在のツアーでは、設楽町内で摂っていただく昼食のみが直接的な売り上げになっているものの、お土産などの物販が促進されていない。

対応案

今後、設楽町によりダム建設下流において**道の駅「清嶺」**が整備される予定であり、当施設を活用したダム見学ツアーが催されれば、お土産などの物販促進にもつながると思われる。

課題③ リピーターの獲得について

地元旅行会社とタイアップした設楽ダム見学ツアーは、昨年度から始まった取り組みであり、リピーターの獲得までには至っていない。

対応案

設楽ダム事業は、令和8年(2026年)度の完成に向け、今後、ダム本体工事の着手など本格的な事業展開が予定されている。ダム見学ツアーの参加者に対し、情報発信を続けることでリピーターを獲得し、設楽ダム事業の理解促進及び設楽ダムを活用した観光促進に繋げていきたい。